

## 国が発展する物流のヒント

極端な話、カンボジアが鎖国をしても発展することがないのは明らかです。国を外に開いて、周りをつながりを持っていくことで、投資や技術、ビジネスの種を呼び込みながら豊かになっていくのでしょうか。

では、つながりやすい相手はいま一体どこにいますか。これはニュートンの万有引力の公式によく例えられます。すなわち、モノとモノが引き合う力は距離が近いほど大きくなります。プノンペンとホーチミンは230キロほど。これは外国の大都市としてはすごく近い。近い将来高速道路ができて日帰りも可能になります。今よりも結びつきが強くなって、プノンペンにはホーチミン発の商店や商品が増えるでしょう。

バンコクはどうでしょうか。プノンペンから750キロほど離



混雑するタイ国境

れています。これはちょっと遠い。プノンペンからは遠いけれど、カンボジアの端っからだったらバンコクまでの距離はさほどではありません。

さて引力の大きさを決める要因はもう一つあります。自分自身の質量です。カンボジアが発展して大きくなればなるほど相手を引きつける力が大きくなるというわけです。だとすれば、もしバタンバンが農業都市として発展して大きな町になったらどうなるのでしょうか。バンコクとプノンペンの間に立ち、両者の引き合う力を強く手助けすることになり、プノンペンは一層エキサイティングな町になることでしょう。

そういったことを考えながら、物の流れを円滑にする仕事をしています。



バタンバンの精米業者さんと

### 讃井一将 SANUI Kazumasa

大阪府吹田市出身。阪神大震災を経験して土木技術者に。JICAに入構し、主にインフラプロジェクトに従事する。現在は物流システム改善プロジェクトでJICA専門家として公共事業運輸省で物流行政に関わる。